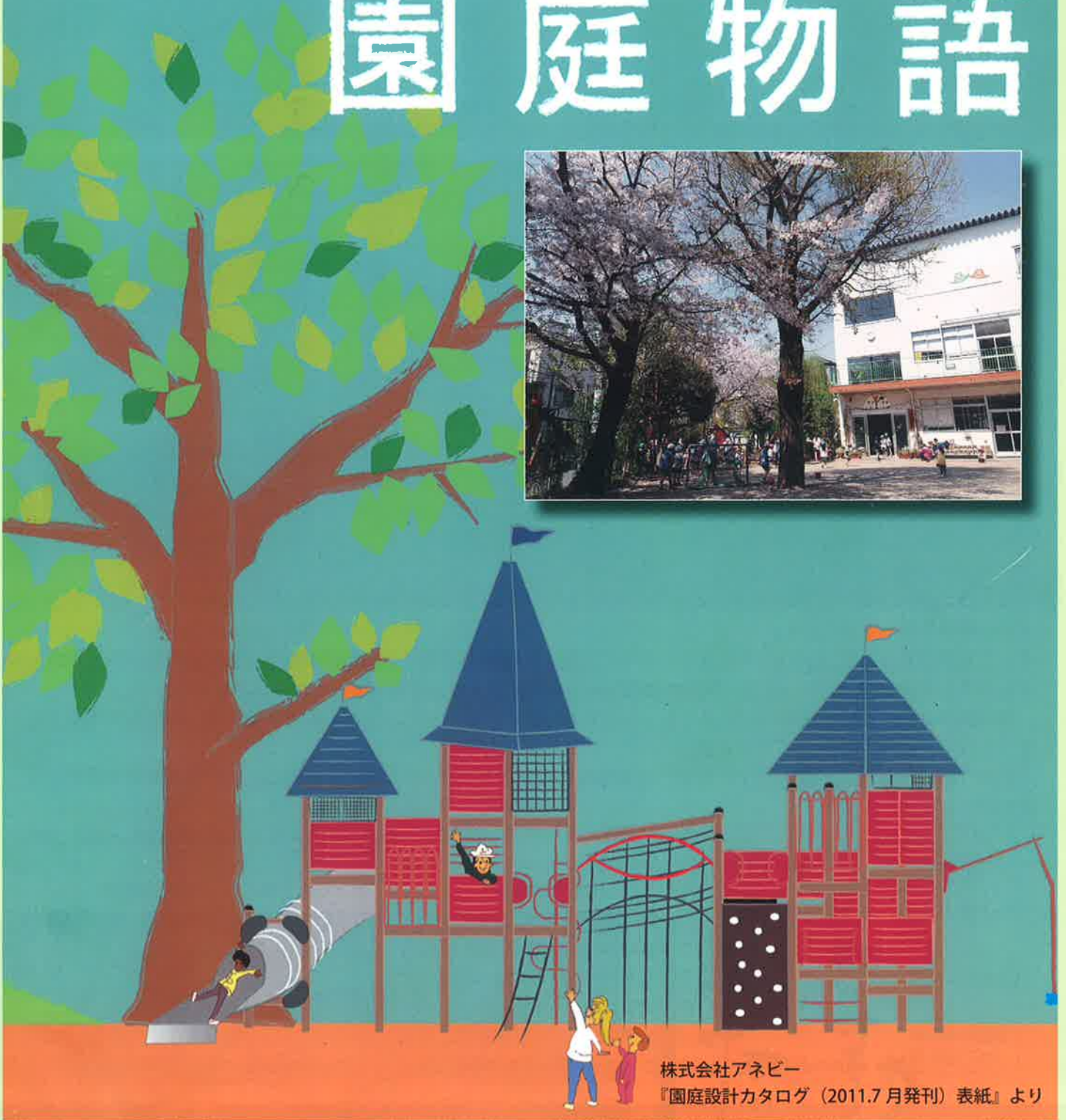


園の文化を育み伝える

園庭物語



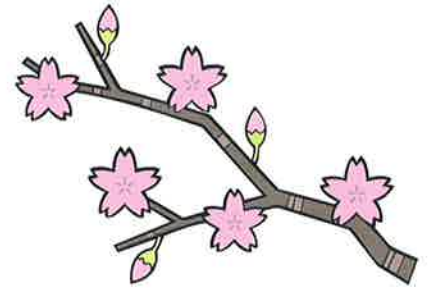
株式会社アネビー
『園庭設計カタログ（2011.7月発刊）表紙』より



大森みのり幼稚園



園庭景観① (春の園庭)



大森みのり幼稚園は、1951年9月に開園されて、おかげさまで創立60周年を迎えるに至りました。表紙(下部写真)は、創立当初の園舎園庭の景観です。

それから60年の年月を経て、みのりの保育を育み伝える現在の園舎園庭へと変遷してきました。大森みのり幼稚園の園庭は、大田区保護樹木指定4本を中心に緑に囲まれ、四季折々の草花や果実が楽しめます。飼育小屋やビオトープ池では、ウサギや鴨、亀、鶏、小鳥、小魚、ザリガニ、蛙等が飼育生息しております。

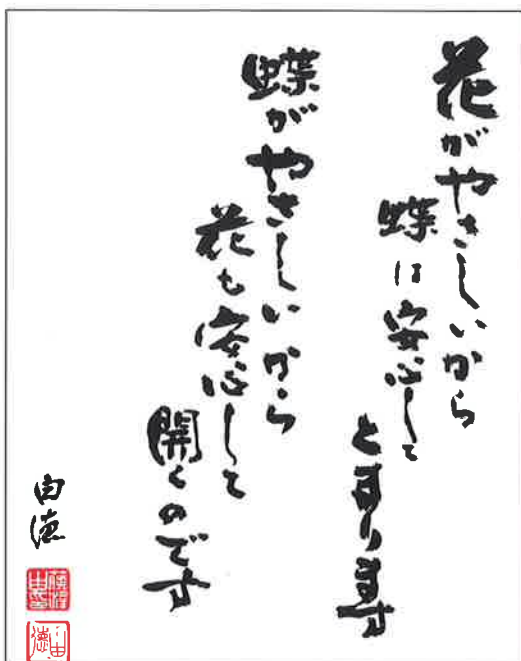
フランス教育家セレスタン・フレネ(1896～1966)は、“自然環境なしで、幼稚園は存在するべきではない”とその情熱を語っております。

そしてただ自然があればいいのではなく、栽培や飼育、小屋、工具等、幼児が熱中しやすいものもちゃんと用意しておくことを重要視しております。本園の園庭への思いは、フレネの教育に通じるものがあります。

園地園庭面積は、園舎園庭・記念ホール・ふたつ山・第2グラウンド・園芸場、正門前駐車場、第2駐車場を含めて3,877㎡の敷地に囲まれております。

この『園庭物語』は、株式会社アネビーの園庭設計カタログ(2011.7月刊)に掲載された本園園庭物語から抜粋引用させて頂きました。

2011年9月 大森みのり幼稚園園長 藤沢 光徳





After

子どもたちの感性を磨き、賢く育てるために つねに変化し続ける園庭

interview

大森みのり幼稚園
藤澤光徳 園長先生・普子 副園長先生

「園庭も園舎も、子どもたちがもっと身体を動かし、もっと目を輝かせるような工夫ができないか」といつも考えている藤澤園長先生。

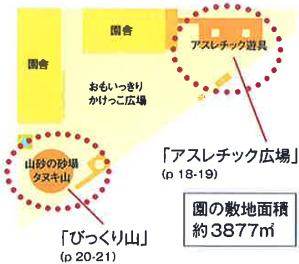
これまで多くの園を見学してきた園長先生が、よい園だと思ったのは、とある都心の小さな保育室だったそ

うです。「狭い保育室でしたが、工夫して円筒型の棚に子どもの遊び材料をそろえていました。敷地に恵まれたところでは発想できないことです。大切なことは、熱意と工夫です」。

この10年間、大森みのり幼稚園では、あらゆるスペースが保育に活用できるかどうか検討され、実際に子どもたちが目を輝かせる「活かされた場」が、次々と生み出されてきま

大森みのり幼稚園

場所：東京都大田区
設置内容：HAGSユニブレイ・オリジナル複合遊具、ピオトープ、砂場ユニミニ、スカイシェード、ウッドフェンス、ガチャポン、こもれびデッキ、植栽、ほか



藤澤園長先生

「遊具が園舎とつながり、大立体遊空間になりました。」



さまざまな遊具が立体的に構成された「アスレチック広場」。大人気の「空中トランポリン」。3階建ての高さのある「ゆらゆらつり橋」。園舎に隣接した大きな「山のぼりスロープ」。Dまるい「鳥の巣」の中は、心地よい風が吹く「ほっとステーション」です(左写真の左下のかごの中)。

した。

創立50周年を記念して園庭のリニューアルが始まり、順次設置されてきた大型遊具は、今では園舎ともつながり、子どもたちが園内を縦横に遊びまわる姿が見られます。一方、園庭の一角は、山砂をたっぷり盛った砂場と、植えられた木々によって、森のようなふんいきになっています。それぞれの遊び場をつくり込むほ

どに、それぞれの遊び場の特徴が際だってきました。

「自分自身も園庭の緑に癒やされる」と語る副園長先生。ていねいにつくり込まれた園庭では、シンボリックツリーのイチョウをはじめ、子どもたちがより身近に自然を感じる果樹、そして多くの草花が大切に育てられています。

植物たちは季節のうつろいとも

に姿を変え、園庭を美しく彩り、潤いを与えてくれています。

変化に富み工夫のある園庭は、珍しいものや未知のものに強い興味をもつ子どもたちの、好奇心を満足させています。

園庭環境の工夫により、「身体はたくましく、感性は鋭く、頭脳は賢く」(園長先生・副園長先生)育まれていきます。

「アスレチック広場」 の変遷



2001年。既存の鉄製遊具。



2002年。創立50周年記念に遊具をリニューアル。既存の遊具も「もったいない」と再利用しました。



2008年。屋根裏部屋付きの屋根もつけ、隣家ができました。子どもたちが意欲的にチャレンジする姿が見られるようになりました。

2010年。遊具と園舎がつながりました。園舎に隣接した「山のぼりスロープ」を駆けのぼり、大人気の「空中トランポリン」へまっしぐら!



園舎と遊具が、「鳥の巣」とつり橋でつながる前。

After



A 多彩な植栽に囲まれ、山砂の築山と土留め、丸太橋、土管トンネルなどで構成された「びっくり山」。B 泥水の池に架かった太い丸太橋。C 水を流すといく筋もの川ができます。

「園(便)りより」

みんなで作る「富士山」

「びっくり山で、富士山のようにきれいな形で、光る泥団子のように硬くピカピカの山を作った年長さん。お片付けの時には、何と次とその次に遊びに園庭に出るクラスの子どもに、自分たちの作った山を守って磨いてくれるように頼み、引継ぎを行いました。私はその様子を見ていて「次の世代に引継ぐ」—そんな言葉が思わず浮かびました。」



年月をかけて少しずつ変化してきた園庭。そこには、つねに子どもたちのよりよい成長を願う、園のポリシーが表れています。子どもたちを取り巻く環境、遊び方、友達のかかわり方、運動能力などをよく考察し、一般の公園や町中では体験できない、「幼児期の遊び体験」が十分にできるようにとの願いが込められてきました。

土や水や風、草や木や小さな生き物たちと、直接触れ合う幼児期の体験は、豊かな人間形成の土台となることでしょう。この場所で遊びながら、子どもたちには、新しいものを発見してびっくりしたときのような鋭い感性をつねにもち続け、発想豊かに遊び込んでほしい、との願いを込めて「びっくり山」と命名しました。

藤澤園長先生

「年月をかけて築き上げられた『びっくり山』は、子どもたちを引きつけてやまない空間に仕上がりました。」

「びっくり山」の誕生

Before



2001年。「この時期、子どもたちがのびのびと遊べるように、とにかく園庭を広くしたいと思い、端にあったプールを移設しグラウンドにしました。」と当時を振り返る園長先生。



2002年。すべり台付きミニハウス(ユニミニ)、土管トンネル、スカイシェードを設置しました。



2005年。山砂を増量しました。



2006年。ガチャポンプ、こもれびデッキ、築山、登り木を設置し、さまざまな樹木も植えました。



朝、子ども達が園庭に出てきて、ガチャポンプ遊びを始めると、川ができ、しばらくすると、山砂の砂場に大きな池ができます。その上に丸太の橋をかけよう、と副園長がひらめきました。

「わー、こわそう」「大丈夫かな」「できるかな」「わたし、できる！」

橋を渡る子は、どの子も足元に全神経を集中し、落ちないように小刻みに揺れながらバランスをとって恐る恐る渡ります。橋は、丸太なので足元はとても不安定。もし、バランスを崩して落ちたら泥池が下で待っています。「キヤー！」やっている子も、見ている子も、ハラハラドキドキ。

取り付けた時は、丸太だから子どもたちは難しくてやらないかな、と予測していたのは大ハズレ。「やってみる！」と行列ができました。『子どもたちはスリルが好き！』と再認識する機会となりました。

バランスが崩れて、ドボンと池に落ちて泥んこになった子も泣きません。「汚れたら着替えればいいんだもんね」子ども達は、困った時の対処の仕方をきちんと知っているから、不安になりません。だからこそ、チャレンジもできるのでしょう。

渡る前と違って、渡り終えた時の子どもの表情は、ふっとゆるみ、ニンマリ。『できたあー(ほっ)』

小さい頃のこんな経験の積み重ねが、人生の荒波を乗り越える力につながっていくのかもしれない。

ハラハラ！ドキドキ！

スリルがいっぱいの丸太橋



スリルがあるから渡り方もいろいろ。智恵を絞って…。

Renew!



施工前のスペース (2.5×2.5m)

CASE.2 大森みのり幼稚園 (東京都大田区)
省スペース& 雨水利用でエコ
魚も喜ぶ安全なビオトープ



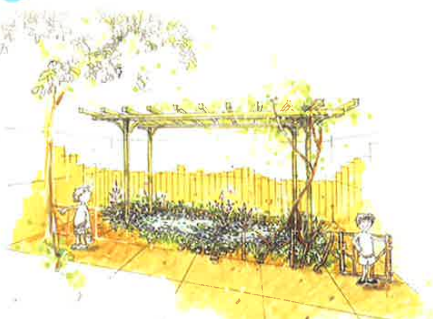
雨水の集水タンクを収納するボックス。(写真左) ビオトープの水と小鳥の蛇口から出る水(動物用)は雨水をエコ活用しています。



「かつは油」と呼ばれています。

小さなスペースでもビオトープを設置することが出来ます。水は雨水を利用して子ども達の環境教育にも役立ちます。子ども達にとっては水深が12〜13センチと浅くて安全ですが、魚が住める深さではありませんので(40〜50センチ必要)、魚が生活できる秘密の仕掛けが施されています。

水は雨水を利用!



イメージパース

遊びが次々生まれる創造空間
—子ども×山砂×水=無限大—

ひと休み

作業台

平均台

ジャンケンポン

ジャンプ



砂場の周囲にぐるりとコースをめぐらせています。一周ごとに自分で印をつけられるカードで意欲を引き立てます。70周で金シールがもらえます。何回でも周ることのできる回遊性は、遊び込める場所のもつ重要な特徴です。

マラソン&
三輪車コース

自然木の

「土留め」も遊び場

山砂の流出を防ぐ土留めは、子ども達にとってちょうど良い形状で、様々な行動を誘う遊び場となっています。



雨水の利用

雨水は飲料水ではないので、蛇口を小鳥形にし設備環境を工夫することで、「小鳥さん用の水だから飲めない」ことが子ども達に分かるようにしています。

小鳥の蛇口
バケツで山砂の砂場にも水を運べます。

あ!ザリガニがいる!

環境教育

苔を多くあしらい地球温暖化防止にささやかな貢献をしています。
4億年前から苔は地球に生存しています。

野草の園

ビオトープ池
池のまわりには、水生植物、苔、糸すずき、ムレチドリハゼ、岩ひば、ほととぎす、藤ばかり等、20種類以上の植物を植えました。今後はメダカやタニシも飼い、多様な生物の棲める場所にし、子どもの原体験を大事にしていきます。

雨水タンク

園庭グリーンMAP

園庭のいたる所で、多種多様な植物が、子どもたちとともに育っています。

有名なO.ヘンリーの「最後の一夜」で主人公が窓の外から眺めていた壁面の植物がヘンリーツタです。

スパイラルタワー

ビオトープ

春、一番に「まず咲く花」であることから「まんさく」、または「豊年万作」が名前の由来といわれている、縁起のよい木です。

「ヤマモモのジュースをつくりましょうか」というと、いきなり飛び上がって「やった！」の大歓声。子どもたちのこの様子に、「大人につくってもらえる」って、子どもにとってこんなにうれしいことなんだと副園長は心を動かされ、ジュースを試してみることに決めました」（「園便り」より）

普子副園長先生

「一日として同じ姿をしていない園庭は、遊びと学び、そして新しい発見がいっぱいです。」

カッパ池に来たトンボ



ビオトープ

生き物が集う場所

水の中で泳ぐメダカやキンギョ。ときどき現れるカナヘビ。「カッパ池」のまわりに水辺の植物やコケ、野草を中心に植えました。季節ごとにトンボがやってきたり、カエルが卵を産んだりして、いろいろな生き物が集います。池に張られているひもは、カラスの水浴びゆです。

いろいろなものを「研く草」、トクサ。昔は実際に歯磨き、つめ磨きにも使われました。

4億年前から地球上で生きている植物です。

- ・アケビ
- ・ムラサキゴケ
- ・ウメバチソウ
- ・コケシノブ
- ・トクサ
- ・セリ
- ・ダイモンジソウ
- ・シノブシダ
- ・ブーゲンビリア
- ・フジバカマ
- ・クスノキ
- ・コケ
- ・ムラサキシキブ
- ・ベニツメグサ
- ・ツククサ
- ・ホトギス
- ・オモト
- ・サンシ
- ・ヒメシヨウブ
- ・ネコヤナギ
- ・イトススキ
- ・ナスチウム
- ・ハゼ
- ・タンポポ
- ・イワヒバ
- ・ムレチドリ
- ・アイビー
- ・サンショウ
- ・ナスタチウム
- ・ヨモギ



「木の物語」



子どもと木々をつなぐ物語

園庭に新しく植えられた木々には、副園長先生オリジナルの「みのりの森の木物語」がそれぞれ添えられています。

「ぼくは、かしの木。「かしの木のかっちゃん」って呼んでいいよ。かっちゃんはね、いつも、ここで、みんなの事を見ているんだ。どろだんごを、「うまくできなーい、せんせいやってー」と言っていた子が、だんだん上手に一人でできるようになるのを見てると、とても嬉しくなるんだよ。

ほら、あの子。おだんごがこわれても、何度もまたやっているよ。えらいなー。おだんごはまだ光らなくても、目が光ってるのを、かっちゃんは知っているよ。

かっちゃんも、ここに来た時は、小さなどんぐりしかつけられなかったけど、今は大きな、どんぐりをつけられるようになったのさ。

かっちゃんは、どこにもいかない。ずっとここにいて、いつも、みんなのことを、しっかり見ているからね。」



山門

手づくりの木の門

「びっくり山」にすてきな入り口ができました。サルスベリの木を組み合わせた門に、ムベを両側からからませてある手づくりの門です。この門が、さらにその奥の魅力的な世界へと子どもたちをいざないます。



「園庭のさまざまな場所に、多種多様な緑が取り入れられています。」

スパイラルタワー

自然に溶け込む色彩

以前、園長先生は、北欧の教育視察に行かれた際、日本とは違う色遣いに新鮮な刺激を感じた、と語られました。それ以来園長先生は、「色」にこだわりをもたれています。木々となじむ色合いのなかで、子どもたちは落ち着いて遊び込みます。



ランダムフェンス

近所の方もうれしくなります

園庭の中だけでなく、外にも自然木のよさを活かした優しいふんいきのランダムフェンスと花壇を設けました。お花は道行く人の目も楽しませます。「いつも楽しみにしていますよ」と、近所の方からうれしい声が届きます。



こもれびデッキ

園を印象づける風景づくり

正面の入り口から園庭を見ると、真っ先に目に飛び込んでくるのがサクラの木です。ランダムフェンスとデッキで囲んで、サクラの美しさが際立つようにしました。ランダムフェンスのハンギングバスケットには、香りがよく虫よけにもなる、ハーブをたくさん植えています。走り疲れた子どもたちが、ほっとひと休みできる「癒やしの空間」です。





大森みのり幼稚園第二園庭 里山のゴーカーコース 「ふたつ山」

「ふたつ山」の植物

25本以上の木、50種類以上の下草を植え、本物の「里山」のように植生豊かになりました。木札で名前をつけてあり、見て歩くだけでも楽しく、いろいろなことがわかる場所です。



ユズリハには詩が添えられています。
 「……こんなに厚い葉
 こんなに大きい葉でも
 新しい葉が出来ると思えば作に落ちる
 新しい葉にいのちをゆずって
 子供たちよ
 お前たちは何をほしがらないでも
 すべてのものがお前たちにゆずられるので
 太陽のめぐるかぎり
 ゆずられるものは絶えません……」
 [河合静若「ゆずり葉」より一部抜粋]

子どもたちがおもいきり乗り物を乗れる場所と、オオバコやカラスノエンドウなどの草遊びができる場所として、第二園庭「ふたつ山」がつけられました。住宅街のなかの駐車場だった場所に、子どもたちの「原風景」を大事にした園の想いから、まるで本当の里山を切り取ってきたような自然豊かな風景になりました。

中央には、2つの山をつくり、その

まわりと間を8の字状に道路をつくりました。その道路は、アップ、ダウンコースやガタガタ走るジブやキックスクーター、ペダルなし自転車などを走らせたりできる変化を楽しめるロードになりました。

中央の2つの山やロードを囲む緑地ゾーンは、里山の自然に近いヤマザクラやコナラ、ヤマモミジの木々を植樹し、オオバコ、カラスノエンドウ、グ



副園長先生がつくった、「ふたつ山」の紙芝居です。



「子どもたちの原風景を大切にしたい、温かな癒やしの空間となりました。」

園子副園長先生



表玄関には、手づくりの看板が掲げられ、幼稚園のシンボルとして、子ども用の木製のいすも飾ってあります。B「ふたつ山」。乗り物だけでなく、多様な植物を見ながら散策を楽しむこともできます。C橋と「隠れ富士山」。遊び心満載のゴーカーコースには、「隠れ富士山」や「隠れミッキー」「隠れパンダ」が潜んでいます。D車庫（休憩所）。色合いも「里山」風の車庫兼休憩所。ひょうたんできた「かかし」は、先生たちがつくりました。Eこの遊び場をつくった職人さんが、心を込めて彫ったお地藏さまもあります。F表玄関の隣にはお地藏さまもいらしゃいます。G表玄関の裏は「やなぎのトンネル」です。H下り坂をスーッと進むと、凹凸のある「ガタガタ道」です。思わず声が出て笑みがこぼれます。I「ジブ」に乗ってドライブの出発です。

ミ、シロツメグサ、ジュズダマなど、身近にあって遊べる草も植え、また虫の住みかができるように枯れ枝を束ねて置いてみました。50種類以上の下草、25種類以上の木を随所に植える作業中は、「何を植えているんですか？」とお母さんたちが興味をもたれ、近所のおばあちゃんたちは「できるのが楽しみ」と見守ってくださいました。仏教園らしく、子どもたちを見守る

「お地藏さま」も配置。「ありがとう」をいっぱい言える子どもほど、いっぱいあわせになれるんじからの」という話が出てくる副園長先生お手製の紙芝居を読んでもらっている子どもたちは、「いつも見守ってくれてありがとう」と、お地藏さまを見ると自然にそっと手を合わせています。子どもたちの「心を育てる」ことにも視点が置かれています。

こうして「ふたつ山」は、大きく枝を広げた木々の間を気持ちよくドライブ感覚で乗り物を楽しめたり、脇の草でほっとして遊べたりと、まるで田舎のふる里に戻ったような感じのする温かな、癒やしの空間となりました。木々の間を抜けて、「ふたつ山」をそよぐ風は、子どもたちのほおを心地よくなでています。

見て!こんなところまで登れたよ!



ゲミノ・アスレチックで生まれ変わる遊び空間

ゲミノの遊びアイテムは、今ある空間を活かします。教室、保育室、遊戯室等の部屋の大小を問わず、壁面・天井・コーナーなどの空いているスペースをどこでも活かし、室内では難しいダイナミックな身体遊びの場所を作り出すことができます。

自分の背丈よりずっと高い遊具に、時に勇気を出して挑戦していくことも遠く、ゲミノ・アスレチックは、小さな空間の中にも豊富な運動パターンが隠されていて、毎日遊んでも飽きることがありません。

◆雨の日の活動に

晴れの日でも雨の日でも、こども達の「動きたい!」気持ちは同じです。室内でもおもしろい身体を動かせば、気持ちが満たされます。絵本を読んだり運動したり、こども達は雨の日もメリハリのある活動ができます。

◆葛藤を乗り越え、自信をつける

遊戯室の壁面に、おもいきり身体を動かして遊ぶクライミング、雲梯、ネット、王様のイスなどのアスレチック遊具を設置しています。



クライミングの上には楽器が取り付けられています。一番上のタンバリンには、「このタンバリンまでとどけば、かべのぼりチャンピオンです! おめでとう!」とあり、こども達の行動欲が一層ひきだされています。



Point!

壁面に取り付けられた様々なアイテムを前に、できないと最初からあきらめてしまったり積極的にチャレンジする子など、アスレチックの前でこども達はそれぞれの姿を見せてくれます。

やがて、あきらめていた子も友達に励まされて挑戦し始めたり、保育者の力を少し借りて達成感を味わい、その後一人でチャレンジしていく子がいたり…

「やったー!」「できた!」と葛藤を乗り越えたこどもの瞳が、キラキラ輝いていくのが確認できる場所です。

◆お友達との不思議な一体感

二階建て構造ならではの特徴を活かした高さ 2.3m の展望デッキや登り遊びなどが設けられています。



Point!

によきによき棒を登ると、大人よりもこどもの目線がずっと高くなります。下にいるお友達にオーイと手を振れば、オーイと答えてくれて、不思議な一体感が生まれます。高い所に登ることのできた達成感と目線が変化する面白さに、こども達はワクワクし、行きたくてたまらない空間となります。

◆ごっこ遊びを楽しむ

静かな遊び場をつくることで、ゲームやごっこ遊びの場所を設けることもできます。



Point!

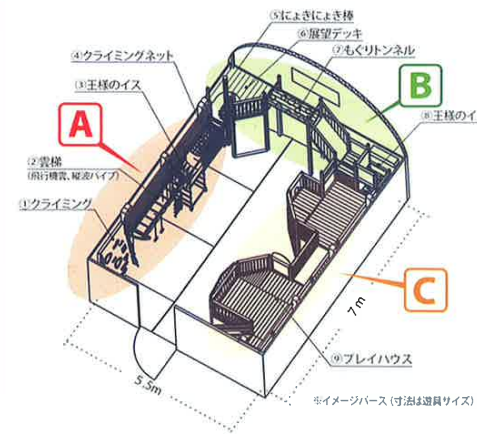
プレイハウスでは、静かな遊びを楽しむことができます。1階のお部屋ではキッチンコーナーでおままごと、2階は線路やゲームなどで遊びます。こども達はおもちゃを通して、お友達と一緒に遊びの世界に入り込んでいきます。

こどもにも大人にも大人気!

本日のルーム使用予定時間	さくら	きりん
10:00-10:40	●	●
10:40-11:20	●	●
11:20-11:60	●	●
11:00-11:40	●	●
11:40-12:20	●	●
12:20-1:00	●	●
1:00-1:40	●	●
1:40-	●	●

アスレチックのある遊戯室は予約制です。1回40分で、好きな時間帯に各クラスの先生がホワイトボードに書き込んでいきます。雨の日は全てのコマが埋まってしまいます。「僕が自分で入れたいくらいだよ。」と園児もつぶやくほど、大人気のお部屋です。

この園の遊戯室は三方の壁面に立体遊具をぐるりと巡らせています。ゲミノは遊びのアイテムやパーツを組み合わせ、このような連続性のある遊び空間もつくることもできます。一度に全て設置されたのではなく、こども達の様子をみながら、A→C→Bの順に段階的に設置されました。





園庭景観②
(びっくり山と秋の園庭)

